

市役所周辺で歩道の傾斜などを調べる  
参加者1122日、三沢市



## バリアフリー化へ協議会 三沢市 年度内に指針策定

三沢市は本年度、バリアフリー化の指針となる移動等円滑化促進方針(マスタープラン)の策定を目指している。22日は関係者が市役所周辺で現地調査を行い、高齢者や障害者の不便利になっていく場所などを確認した。

市は、障害などの有無にかかわらず誰もが暮らしやすい「共生社会」の実現を掲げている。マスタープランを策定することで、設定した地区の道路や公共施設などの一体的なバリアフリー化を進めたい考え。

22日は行政や福祉、交通関係者ら23人で構成する市移動等円滑化促進協議会を

設立。委員や障害者らが2グループに分かれて、公共施設が多い市役所周辺を調査した。八戸工業大の学生も協力した。

約1時間半の調査では、スロープの途中に段差がある公共施設や、傾斜が大きい歩道などを確認。終了後、グループごとに発見した問題点や意見を出し合っ地図に書き込んだ。

調査に参加した車いす利用者の女性(40)は「段差は見た目より実際に体感した方がきついなと思った」と不便に感じた点を挙げた。

協議会会長を務める安部信行同大准教授は「障害者と歩いて、健常者が気付か

ないようなバリアも分かった。全国の模範となるようなマスタープランを策定したい」と話した。

今後は市民アンケートやパブリックコメント(意見公募)などの結果を踏まえ、マスタープランを策定する。バリアフリーマップも作成する。(柴田佳弥)